

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	J2602
代表機関名	一橋大学
主担当研究者所属部局	経済研究所
関連研究分野	経済政策
主担当研究者	後藤 玲子
事業名	トランス・ポジショナル（位置越境）なケイパビリティ指標の作成に向けた国際共同研究

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 4
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた 6 名の派遣に対し、最終的に 300 日以上派遣した者が 5 名（准教授 2 名＝345 日、315 日、講師 2 名＝300 日、304 日、特任講師 1 名＝320 日）となった。 ・計画していた 14 名の招へいに対し、最終的に 18 名の招へいとなった。 ・若手研究者が査読誌、国際共著論文を含む 15 本の論文・著書を発表しており、共同研究成果を上げているといえる。また招へい者にノーベル経済学賞受賞者が含まれていることから、高水準の研究ネットワークが形成されているといえる。 ・若手研究者のうち 2 名が、テニユアを持つ准教授として採用されている、著作により受賞した者もいることから、人材育成面での成果があったといえる。 <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・本事業全体において執筆された論文・著書は査読誌、国際共著論文を含む 72 本で、その成果は十分に認められる。特に若手研究者が学術専門雑誌をはじめとして、ワーキングペーパー、書籍などにその研究成果を公表している点について評価できる。 ・本事業での招へい研究者が地域・研究分野において多様であり、従来の経済学にとどまらない領域も含みつつ、本事業と直接・密接に関わった課題について活発な共同研究がなされている点などから、経済学と他の学問研究・政策実践との有意義な共同研究の拠点作りがなされたと評価できる。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

II 今後の展望

評 点 4
コメント

・本事業で共同研究を行った海外機関から提案を受けて大学院博士課程レベルでの交換制度が検討されており、連携機関とも共同研究が進行中であることなどから、今後も研究ネットワークが継続・発展するものと期待できる。また、若手研究者が派遣先での積極的な研究活動もあって、今後も研究ネットワークの核として活躍を期待できる。

・期限付き採用教員の長期派遣が認められるようになるなど、本事業終了後も制度的な支援が期待できる。

以上のことから、今後の展望は高く評価できる。

総合的評価

評 点 4

コメント

・世界のトップレベルの海外研究機関との交流により世界の最前線の情報を収集し、それを踏まえて我が国における課題に取り組んできており、派遣された若手が派遣先で精力的に共同研究活動を行っていることから、高い水準の国際共同研究プロジェクトをこれまで着実に実施してきたといえる。継続し得る共同研究の基盤作りにも成果があったものと評価でき、今後もこれまでに築いてきた人的なネットワークを通じて、当該研究ネットワークは維持・発展するものと大いに期待が持てる。

以上のことから、総合的に高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【I (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【II、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない